



西村 孝夫

定額給付金の
実施について

【問】現在、「定額給付金」の実施に向けて準備中だが市として、その意義をどのように認識しているのか。

【答】現在の地域経済の現状を踏まえれば直接的な給付を行なうことで、心理的効果という側面も含め、地域経済や市民の消費動向に一定程度の効果はあるものと考ええる。

【問】単に支給のみではなく、市内を賑わす工夫が必要ではないか。

【答】商工会議所など関係団体と協議していきたい。



渡辺 勉

固定資産税滞納者への
強制捜索について

【問】平成20年11月20日に行われた強制捜索は、何を基準に悪質と判断したのか、市民にわかるように明確にするべきである。またマスコミを同行しての捜索は、納税者のプライバシーの侵害であり、見せしめ的なものにもなり、到底容認することは出来ない。捜索へ至るまでの納税相談・指導・対策等を行い、あくまでも納税者の立場を理解した徴税を行うべきであると考えが見解は。

【答】今回の捜索は法にのっとり適正に行ったと判断している。



辻 弘之

共働き家庭に
やさしいまちづくり

何らかの事情で空き家になり、老朽化したまま放置された「老朽危険家屋」について、窓ガラスの飛散や自然倒壊などの危険性が高いため、抜本的対策が必要と質問。しかしながら、法律などに基づく明確な対策には乏しく、まずは市内全域の老朽危険家屋の実態調査を行うことになる。

また、共働き家庭の少子化対策となる「病後児保育事業」について質問。自宅へ看護師を派遣する手法など、事業実施へ前向きな答弁を引き出した。



松山 哲男

大きな柱にした
子育て環境づくりを

虐待や不登校、引きこもり、非行に関わる要保護児童対策として、予防・防止など、子どもの安全・安心を重要視した取り組みを行うべきと考える。

また、保護者や子ども達に対し、子育て環境をどのように構築するのも大きな課題である。

さらに現状では、各部署ごとの取り組みが目につくので、市として、安全・安心な子育て環境づくりを大きな柱にした総合的な仕組みづくりなどについて、各々の見解を質した。

平成19年度 決算を審査

平成20年11月10日～13日までの4日間にわたり、議長および監査委員を除く19名の議員により、平成19年度の決算認定について審査を実施しました。
多くの質疑が行われましたが、一議員一質問を基本に主なものを掲載しました。



松山 哲男

①決算における黒字収支分は、次年度予算に「繰越金」として小出しで出されるが、早期に把握をし、当初予算時に明示すべき②道からの権限移譲が道内2番目に多いが、その業務量は職員数などを踏まえた権限移譲なのかを質した。

高橋 正美

【問】当市で策定している自立支援プログラムを「母子世帯」「多重債務者」「DV被害者」など課題ごとに検討しプログラム化する必要があるのではないか。

【答】各市の状況を調査しながら、研究していきたい。

米田 登美子

【問】ファミリーサポート事業における提供会員、依頼会員の安心確保や事業の充実を、どのように図るのか。

【答】子育て家庭支援の中心的事業の一つであり、会員拡大のため説明会を行う必要な支援を安定的に提供するように努める。